

# ほうなん

令和7年度 9月号

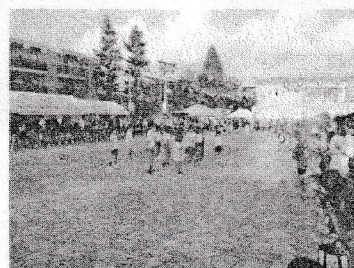
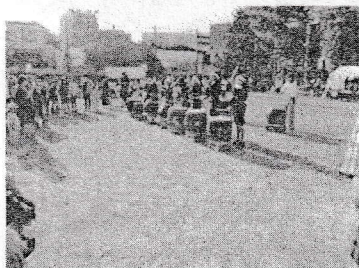
令和7年8月29日  
杉並区立方南小学校  
03(3322)7661

## 地域とともに輝く方南小

校長 吉岡 光弘

最近、YouTubeで印象的な映像を見ました。世界中の学生に人気のハーバード大学の哲学者、マイケル・サンデル教授が、人と人とのつながりや信頼について語っていました。教授はこう話します。「社会を健全に保つ力は、強制や単一の制度だけにあるのではない。人々の間に信頼と公共の意識があることが大切だ」。この一言に、私は深くうなずきました。

その言葉に重なるのが、方南小の姿です。8月の夏祭りを思い出します。校庭には、太鼓の力強い響きと、夕暮れにきらめく子どもたちの笑顔。夏休みに何度も練習を重ねた子どもたちの真剣な表情は、本番で見事に花開きました。その一方で、校庭の隅では、地域の方々が汗をぬぐいながらテントを立て、おやじの会の皆さんが資材を運び、PTAの方々が安全を見守っていました。そのどの姿にも、「子どもたちのために」という自然な思いがあふれていました。こうした光景を見て、「この学校、この地域の強さはここにある」と改めて実感しました。

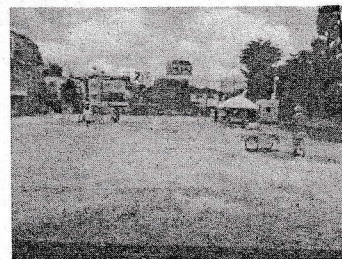
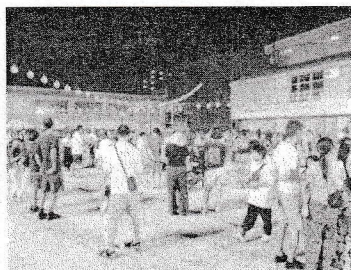


こうした信頼のつながりは、夏祭りだけで生まれるものではありません。先日の学校運営協議会では、子どもたちの学びや安全をどう守り育てていくかをテーマに、運営協議会委員や学校支援本部、保護者、教職員が率直に意見を交わしました。「学校だけでなく、地域と共に子どもたちを支えるために何ができるか」。そんな対話を重ねられることは、学校にとって何よりの力です。こうした場を通して、学校と地域の距離はますます近くなり、子どもたちの学びの環境はより豊かになっていきます。

サンデル教授は、著書『これからの「正義」の話をしよう』で、「正義とは、ただルールを守ることではなく、共に何が善いかを考えることだ」と述べています。社会やコミュニティを支えているのは、法律や制度だけではありません。互いを思いやる心と、共通の価値を考える力が、秩序を保つ基盤になるのです。この考え方は、地域と学校が一体となって子どもたちを支える方南小の姿そのものだと思います。

そして、こうした文化を支える大切な力が、PTA活動です。近年、関わり方や人数は変化していますが、学校行事や日々の学びを支える場面で、PTAの力は欠かせません。それだけではありません。PTAは、保護者同士が子育ての悩みや喜びを分かち合う貴重な場でもあります。誰かと話せる場所があることが、どれほど安心につながるか。その価値を感じている方も多いのではないのでしょうか。「子どもたちのために」という思いを共有しながら、一緒に活動してくださる仲間がさらに広がっていくことを願っています。

信頼でつながる力を、これからも大切にしていきたい。そして、その価値を子どもたちに伝えていくことが、私たち大人の使命です。子どもたちのために、今できることを一緒に考えてみませんか？



## 5年生 移動教室に行ってきました

6月から準備を進めてきた移動教室。学年みんなで決めたスローガン。

「一致団結 全員が楽しい移動教室にしよう」

～安全第一に、時間を守り、協力しよう～

子どもたちが自分の力で、また仲間と協力し合いながら活動を進めることができた移動教室でした。生活班の係では自分の役割に責任をもち、みんなで仲良く楽しい移動教室になるようにと準備しました。うまくいかないことがあっても、気持ちを切り替えて取り組む姿も見られ大きな成長を感じました。自然の中での活動は、学校ではできない体験や楽しさもあり、わくわくする子どもたちの表情が微笑ましかったです。

2学期は、スポーツフェスティバルや展覧会など5年生の活躍がたくさん見られると思います。5年生みんなで、共に大きな行事を経験して、6年生へ向けて成長していったほしいです。



## 少人数算数指導について

算数の授業では、個々の習熟状況に応じて学習集団を編成し、その集団に適した教材・教具を用いて指導しています。また、学習のねらいにせまるために、対話的な学びを多く取り入れています。



対話とは、自分のもつ意見や情報を互いに伝え合って共有する『他者との対話』、自分のもつ知識をもとに思考を深めていく『自分との対話』があります。授業では、子どもが話したいと思う課題の工夫し、適切なタイミングで対話を取り入れるよう心掛けています。やりとりを繰り返すことで、自分の考えを整理したり、明確にしたりする力、新たな考え方を付け加えながら創り出す力を育てることができると考えています。

自分の考えをもつと、合っているか確かめなくなったり、友達の考え方を知りたくなったり、他に効率的な考え方はできないか深めてみなくなったり…もっと〇〇したいと思ったときが対話のチャンスです。

「ああ、そういうことか。」「なるほど。」

「前の〇〇が使えた！」という子どもたちの達成感を大切に、授業を展開していきます。

